

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎カラー特集 第29回「東南アジア青年の船」事業
日本国内受入れプログラム

マクロコズム 2002.11



vol. 49

(財)青少年国際交流推進センター

第29回「東南アジア青年の船」事業



▲ 参集式にて歓迎の挨拶をする福田官房長官

参集式(9月9日)



▲ 紹介を受ける11か国のナショナルリーダー

◀ 自国紹介ではりきってアピールする参加青年

第29回「東南アジア青年の船」事業は、9月8日にアセアン10か国の青年が日本に到着し、9月9日に日本を含めた11か国がそろって参集式が開催されスタートを切りました。日本国内でのプログラム終了後、9月17日に横浜港大棧橋を出航し、ヴィエトナム、インドネシア、マレーシア、タイに寄港して、最終寄港地であるシンガポールでの活動を終了した後に10月29日に航空機にて帰国の途につきました。

今回は、9月に実施された日本国内プログラムをお伝えし、次号にはアセアン各国及び船上での活動を集めます。

アジア・ユース・ミーティング（9月9日～11日）

アジア・ユース・ミーティングは、一般募集をした青年約60名及び実行委員約70名計130名の日本青年との2泊3日の合宿型交流プログラムです。今年は、「基礎教育」をテーマにして、小学校訪問とディスカッションを中心に据え、交流パーティを含めて、日本国内プログラムのスタートに相応しい楽しい時間を作り上げることができました。

小学校訪問（9月10日）

東京都新宿区立の小中学校の協力を得て、SGグループ毎（11か国の青年が混合されているグループで、事業中の活動の多くはこのグループを基本とする。）に、小学校10校（市谷、戸山、柏木、花園、四谷第六、西新宿、余丁町、富久、落合第六、戸塚第三）と西戸山中学校の11校に分かれて訪問し、子供達との交流や先生方との質疑を行いました。

▼ 新宿区立落合第六小学校



▲ 新宿区立市谷小学校



▲ 新宿区立柏木小学校



▲ 新宿区立花園小学校



第29回「東南アジア青年の船」日本国内受入れプログラム



◀ 歓迎のメッセージを贈る野田実行委員長
(第21回「東南アジア青年の船」既参加青年)

フレンドシップパーティ (9月10日夜)



▲ 日本のローカルユースによる「よさこい」
短時間で一生懸命に練習し、素晴らしい
成果を披露

▼ マレーシア青年のパフォーマンス



グループ・ディスカッション (9月11日)

自国の基礎教育について説明し合いながらの意見交換
出合って2日目にも係わらず時間が短いと感じるほど
▼ 盛り上がったグループもありました



▲ この3日間を作り上げるために3か月近く頑張ってきた
実行委員のメンバー



「それは君達のおかずだからもらえない。代わりに家で休ませてもらえないか」と家によんでもらいました。行ってビックリしました。竹と土と木で作ったような家で、下はもちろん土です。台所用のかまどが一つあって、鍋も2つか3つ、あとは食器類がちょっと、ベッドが一つしかないという生活なんですね。そんな子供達が人にもものをあげてしまう。このとき私が思ったのは、もしかしたら彼らは人にもものをあげたり分け合うということで、相手が喜んでくれるということで自分達も幸せになれるというか、善しとしているのかなと思いました。非常にいろいろ考えさせられた子供たちです。

北米アラスカでの体験

【スライド36】アラスカのオーロラ

(この後、アジアを後にして飛行機で北米アラスカに渡りました。この時点で2年半以上が過ぎています。)オーロラというのは皮肉なもので、私が写真をとろうと構えているときには、いいのはあまり出ないんです。中ではこれが一番良く撮れているものです。初めて見たのですが、本当に震えが止まらないくらいの感動でした。寒いからではなくて感動で震えるんです。このオーロラは、見ていると上がったたり下がったり、閉じたり開いたり、色が変わったり消えたり、本当に生き物のようです。鳥肌というのは1回ぶるぶるとくと消えるものなのですが、消えた瞬間にまた次の鳥肌がきて震えっぱなし。宇宙というか人間の考えること以上の大きい存在というものを感じていました。アラスカの冬は早くて10月既に雪が降って、氷の上をスパイクタイヤで走っていた頃です。

【スライド37】アラスカの家

アラスカで家に入れてもらいますと、熊の毛皮が壁にかかっていたり、またライフル銃が壁にあっただりですね、私も何度か撃たせてもらいました。

【スライド38】これはテントを張らせてもらったガレージの様子です。彼らの家も非常に狭くて寒い、山小屋のようなものに住んでいます。それでガレージにテントを張らせてもらっているのですが、おかげで雪の上にテントを張らなくていい。寒さは全然変わらないんですが、彼らのできる精一杯のおもてなしということで助けられました。実はこのアラスカとカナダで、重たい荷物また寒い中走り続けていて膝を故障させてしまい、走れなくなりました。約1か月リハビリをしていたのですが、暖かい所に行かないと治らないということで、南米のチリに飛行機で渡りました。

～南米へ渡る～

【スライド39】パタゴニアの夕焼け

南米のパタゴニアという南米大陸の南端の夕焼けの景色です。日本から見ますと地球のちょうど真裏の地の果て、大自然の中です。この辺りには人が住んでいませんので、毎日キャンプをしていました。この時間になるとちょうどご飯をガスコンロで作って、今日も一日無事に終わったんだなと、何ものかに感謝する、今日も一日無事であったという思いを込める一瞬です。

【スライド40】パタゴニアの大氷河

幅が何と4キロもあります。20ミリの広角レンズでも全部写りきらない、本当に素晴らしい大自然です。

【スライド41】 パタゴニアは風の大地、世界一強風の吹く所として知られています。僻地好きの旅行者には有名です。1年中同じ方向から強い風が吹いているので、木の枝が一方方向に伸びて固まっているんです。ちょっと変な話ですが、外でおしっこをするとき、風下に向かって立っておしっこをすると風がぶわーっと舞って、おしっこのしぶきが顔にかかるんです。私がどうしていたかという、地面に膝をついてします。すると風が下からも横からも舞っても顔まではかかってこないんですね、皆さんも参考にさせていただきたいと思います。

【スライド42】 3人の自転車乗り

自転車乗りというのはなぜか最北端とか最南端とかいう所が好きなんです。写真の3人の真ん中にある男はスイス人で、40何歳と言っていました。8年間も世界を回っているという、ほとんど気がふれていますね。日本にも来たと言っていました。右端の彼はアメリカ人で大学を出て仕事につく前に世界を見てきたいということで南米大陸を縦断していました。言葉とか関係なく、みんなが同じ目的に向かって力を合わせて走っていくという素晴らしい体験をしている頃です。私の体格が彼らに比べると小さくて、彼らの前では子供みたいな感じで、そういう面では自信を無くしたりしていましたけれども、それも良い体験でした。

【スライド43】 九死に一生

これはサボテンです。日本にはこういう景色がありませんので最初はすごい感動して写真をいっぱい撮っていましたが、すぐに飽きるんですね。それからはだんだん厳しい環境に嫌気がさしてくるという時でした。

実はアルゼンチンの北部でひどい高山病にかかりまして、今回4年間の中で唯一自分はもしかしたら命が無くなるかなという思いをしました。標高4,000メートルくらい、飲み水がないので自分のおしっこをボトルに取っておいて、最後はそれを飲もうと思っていました。前日はオートバイが2台しか通らなかったの、自分の荷物とか遺体がどうやって発見されるのかということまで考えていたんです。その時、これは運良くというのを越えているのですが、この州の州知事さんがたまたまトラックで通りかかって私の荷物ごと乗せて国境警備隊の酸素がある所に連れて行ってくれたんです。本当にタイミングよく州知事が通りかかってくれたのです。この道を舗装するために視察に来ていたというんですけれど、私が倒れた前日でもなければ翌日でもなく、当日に来てくれたおかげで今もこうして生きているかと思うと、これはまさしく自分の力で旅をしているのではなくて、何者かがしむけてくれて初めて旅で生きているんだと、4年目になるとそういうふうに思っていました。

【スライド44】 温かい出会い

これはその後お世話になったアルゼンチンの家族です。この家族も私が高山病のことを一言もしゃべらないのに、僕が高山病にかかっていたのを知っていたかのように温かいおもてなしをしてくれました。お母さんは食べ物とかベッドの用意だけでなく洗濯までしてくれますし、お父さんは僕が自転車の修理をしていますと、良い工具があるからこれを使えと一緒に手伝ってくれたりとか、この人たちのおかげで、2～3週間は自転車にまたがりたいかと思っていた私が10日間で新たなス

タートを切ることができました。出会いのおかげで自分が前に進ませてもらっているということを本当に実感します。

【スライド45】 3回も訪れたマチュピチュ

ペルーのマチュピチュという遺跡です。ここは自転車では行けませんのでインカトレイルというインカ人が歩いていた道をキャンプをしながらトレッキングをして到達しました。私は4年間で同じ所は1回きりにしようと思っていたんですが、ここはなぜか3回も足を運んでしまうほど不思議な魅力がある所です。

【スライド46】 塩の湖

南米にはウユニエン湖という世界一大きい塩の湖があります。琵琶湖の12倍の大きさがあるそうで、標高が高いため乾季になると水が全部すぐ干上がって、カチカチの塩の大地になっています。そこを方位磁石を見ながら走っていたんです。私にとってこのウユニエン湖というのは一つの憧れの土地でした。

【スライド47】 荒野での出会い

これはウユニエン湖の脇です。こういう荒野を走っていると人との出会いに鳥肌が立つ、それに励まされて走れる。それもこの人は日本人だったんです。オートバイで走っている人で彼と会って感激して二人で記念写真をとったのです。彼も嬉しくてよくしゃべりました。この道は補給地点もないし風は強いし道路はぼこぼこだし何度も転倒したよと。その後彼は気をつけてと言っ行って行っちゃうんです。その後取り残された僕は、僕のほうが大変だと思うんだがなんと、結構ショックでした。

【スライド48】 旅の最後のガラパゴス諸島

エクアドルという国にあります。本土から約1,000キロ離れた野生の王国です。ダーウィンの進化論で有名な所で、珍しい植物や動物にも感動したんですが、一番感動したのはシュノーケリングをしているイギリス人のお爺さんでした。この写真をとったあと陸に上がってきて子供のように興奮しながら言うんです。アシカと一緒に泳ぐことができると本当に嬉しいと、ずっと夢だった、それがかなって本当に嬉しいんだと子供のようにしゃぐものですから、私も嬉しくなって、感動して、ここは日本人にとっても憧れの土地なんだと。

【スライド49】 ゴール

これが4年3か月間のゴール、エクアドルです。エクアドルというのはスペイン語で赤道の意味です。この地面に引かれた黄色い線が赤道なんです。ここが緯度が0度ということで、ここでゴールを迎えました。

【スライド50】 不思議な治療

4年間の旅でたくさんの病気やけがをしましたので日本に帰る前に治療して帰ろうと思いました。変な病気を持って帰るのもよくないし、また海外旅行保険に40万円近いお金を払っていたので、初めはアメリカの最先端の医療を受けて帰国しようと思っていたのですが、4年も走っていると気が変わって、せっかくエクアドルにいるんだから現地の伝統治療で治そうと思いました。医者に行きますとテンジクネズミというモルモットのような生きたネズミを服の上からこすりつけられるんです。生きていますのでTシャツもひっかかれますし、そのうち失神して失禁する、おしっこをかけられるのですが先生は構わずやるんです。

5分くらいたって治ったよと。最初に問診もなく、どういうことかと聞きますと、おまえの悪い部分がネズミに移ったのでおまえは治ったと。そんなことあるものか、証明しろと言いますと、私の前で解剖を始めたのです。これがその写真です。お医者さんがネズミの膀胱を見せて、赤くはれている、おまえ膀胱悪いだろと言われました。実は1年半くらい前に、私がチベットで膀胱炎になっていました。当時はマイナス20〜30度で、テントから出て外におしっこに行くのがめんどなものですからずっと我慢しているんです。衛生状態も良くない、1か月に1回しかシャワーを浴びられない衛生環境だったんです。それ以来膀胱の調子がよくなかったんです。また、南京虫とかダニによく噛まれるので、毎日夜眠くなると体温が上がって腰の周りが痒くて眠りにくかったのですが、この時にそう言われて、この日の夜からぐっすり眠れるようになって、もしかするとネズミのおかげかなと思ったのです。そう思ったときに僕の膀胱も良くなった気がするんですね。信じるものは救われるというのはこういうことかなと、たまたまネズミが役割を果たしてくれただけであって、人間は本来自分で治す力を持っていてそれを上手く利用できるのが勝ちというか。私の父が奈良の橿原神宮から毎年送られて来る人形の形をした薄い紙がありまして、こすり人形といったかと思いますが、体の悪いところをこすって燃やすと病気が治ったり、悪いものがついているのが抜けていくという。昔は疑っていたのですが日本に帰ってきてからはそれを一生懸命やるようになりました。

【スライド51】これが最後の1枚

世界一周のおおまかなルートです。1年目が赤いルートで、ロンドンを出発してアフリカ、この辺りは地雷が埋まっていますので飛行機で飛んだり、ナイジェリアはビザが下りなかったり、ここも民族紛争をしていたり。2年目から南部ですね。シルクロードはトルコから走って緑の線で、ここで倒れたり。3年目が青い線、アラスカ、カナダ、ここはフィヨルドの中を船で渡りましたので走っていません。この辺りで膝をこわして北米の走破ができずに南米に飛びました。ここを通過して1999年の12月28日にゴールを迎えました。ということで、スライドショーは終了したいと思います。駆け足で世界一周をしていただきました。

【質疑応答より】

Q：日々の資金繰りはどうされていたのかというのと、あと言葉の壁ですね、坂本さんの意思がなかなか伝わらないということもたくさんあったと思いますが、何か一例を披露していただければと思います。

A：まず資金繰りなんですけど、このような夢、個人的なことをやるにあたって2通りのやり方があるって、一つは本当に個人のお金で行く。これは非常に難しい。みんな苦勞してたくさんの方の sponsor とか財団にお願いして、何らか返すというやり方でやっています。ちょっと話が長くなるのですが、会社に有給休暇としてサポートしてもらっていました。この経緯なんですけど、ミキハウスに入社した一番最初のきっかけが会社説明会に行った時の木村という社長の話と人

柄で、こんなおっさんのところで働きたいなと思ったのがきっかけでした。入社してすぐは海外事業部で、子供の頃住んでいたフランスのお店で所長をやりたいという希望をもっていたんですが、2年目から人事に配属になって、その頃から私の夢を何とか叶えたいということを年に2回業務レポートに書いていました。

ミキハウスというのは非常に変わった会社で、社長が自ら1,000人の社員にボーナスを手渡すんです。渡すときに直接会ってもいきなり話ができないので、話をする準備として社長が社員から出させたレポートを見て面談をしながらボーナスを渡すんです。私はその年2回の業務レポートに自転車で世界を回る夢がありますということを書いていたんです。もちろん会社なのでそんなのが認められるわけではないです。でも僕はちょっと変わったところがあって、それを入社したときから3年6回以上書いていたんです。そんなの許されるはずがないと思っていて、26歳の時、夢をとります、ミキハウスもすごい好きな会社でせっかく縁があり残念だけど、夢をとりますと書いたんです。同時に、今回の4年間で約1,000万円かかる計算でしたので少なくとも300万円くらいはスポンサーから物資を提供してもらおうと思って、25社くらいから協賛をもらうことができた。今日ご覧になった自転車、カメラフィルム、時計、タイヤ、浄水器とかほとんどをスポンサーが提供してくれたんです。その25社のリストを最後のレポートに出したんです。スポンサーが僕の夢に協力してくれることになりましたので夢をとります、ありがとうございます、行ってきますと書きま



したら、そこまで本気だったとは思わなかった、それでは俺も応援するよということで休暇をくれたんです。それだけではなくて、私が自転車の練習をしていることを実証するためにレースに出たりしていました。それもできるだけ小さいロードレースに参加します。例えば200人のレースですと私も60~50位なんですけれど、60人くらいのレースに出ますと10位以内に入れるんですね。その10位以内に入った成績だけを会社に持って行って、自分はちゃんと走っていると。あとは、私はローラー台というよくスポーツジムで自転車をこぐ、あれの練習が嫌いなんですけど、たまたま雨の日に寮で練習していたら、その日にかぎって社長室長の人とかいろいろな部の人が大勢来て、おっ坂本練習しているじゃないかと。練習したのは1~2回だったんですが、運良くそういうのを見てもらったりとか、運も味方してくれて。それで結局本気なんだなと社長がOKしてくれて。何よりも驚いたのが、いっさいの宣伝とか業務的な義務はないとということで、純粹に私が夢をかなえら

れる、いろんな人と出会えるという条件で旅をできるように社長はとりはからってくれたということです。創業社長ですので自分の会社で1人くらいそういうちょっと変わった奴がいてもいいんじゃないかと、だいたい一割くらいの社員はいてもあまり仕事をしていないんだからという感じだったんです。ですから資金繰りに関してはミキハウスという非常に理解のある会社のおかげという部分が多いです。

言葉の面は、よく聞かれることなんですが、出発する前に会社を説得するということが英語とフランス語はある程度勉強しました。NHKのやさしいビジネス英語とかラジオ講座とかで覚えまして、出発のときは英語とフランス語ができるようにしておきました。でも実際現地に行きますと現地の部族語のほうがもちろん受け入れられますので、その言葉をできるだけ現地で覚えます。アフリカのセネガルで“ナガサデュグダヨ”という言葉があります。朝から申し訳ないのですが、君のあそこの調子はどうかねという挨拶なんですね、それで答えが“ムンギダラー”、元気だよという答えなんですけれども、そういう現地の言葉を覚えることでコミュニケーションをとっていました。言葉だけではなくて要は心をどれだけ近づけられるか、現地のを食べられるか、現地の習慣に入り込めるかです。かつてアフリカに来たイギリス人やフランス人は現地の習慣を取り入れなかった。アフリカ人を奴隷として使っていましたので。アフリカ人にとっては、よその人は絶対に自分たちの文化を受け入れないものだと思っています。

そういう人たちのところに行って私が手づかみで象とか食べると喜んでくれるんです。また最後の1年間は南米大陸にいたので走りながらスペイン語を覚えました。なかなか意思疎通ができないということが何度も何度もあったのですが、そういうときやっていたことというのは、家族の写真を持って行っていましたので、そういう写真を見せて間をつなぐとか、あと正月の写真があると日本紹介ができます。海外に行って自分がよその文化を知るだけでなく、日本のことを伝えていくのも義務だと思っていましたので、そういうこともやっておりました。日本の紹介で自分の言いたいこと伝えたいことが伝わらないというのは本当に悔しい思いをしました。ただ自分が現地の生活文化を受け入れようとするので向うが聞く耳をもってくれることはありましたので、日本語で話をしていてもあーそうなのかとわかってくれることはあったように思います。

Q：二つお聞きしたいことがあるんですが、将来的にずっと日本に住んでいたいということと、第一の夢は実現されたということですが、一生かけて実現したい夢は何なのでしょう。

A：日本に住みたいかということですが、50～60歳以降は日本に住みたいと思っています。ただ今あまり先のことは考えないというか、考えてもしょうがないかなと。今僕は日本にいるのがすごい良いなと思っています。

二つ目のご質問の今後の夢という部分につなげてお話ししたいのですが、一つ目の夢をかなえることができ、次ということで、実は来年

なんですが、夢というよりも目標ということでお話ししたいのですが、去年の1月に「やった！」という本が出版されまして、この本の印税で、アフリカの私がニワトリをいただいた村があったと思いますが、あそこに学校とか病院、助けてくれたお医者さんの病院を広くしたり、道路を作っていくという計画がありまして、それが僕の今の目標というか夢なんです。

そのお医者さんが、家には水もなければ電気もない、そういう人が僕の治療をしてくれてお金を一銭も受け取ってくれない。おまえは友だちだから金はもらえないと言うし、おまえが俺の国にいる間は俺が全部面倒をみるんだと。それに対して、人としての誇りとか返し方というのを考えるようになったんですね。私は4年間好きなことをやらしてもらったので、少なくとも

も同じ4年間を返していく活動に、来年4年目にこのプロジェクトを実行して、それで初めて体験の輪が閉じるというふうに思っているんです。その先のことは正直今は具体的にはイメージしてなくて、目の前のこのことで精一杯で、満足している。この2年間僕がきっちり僕の役割をすることによって、その先は絶対に導かれると体験的に信じているので、あんまり心配はしていないというところです。どこに住んでいくのかというのもあまり今はこだわっていないと申し上げたいと思います。

(今回で、坂本さんの講演録は終了します。坂本さんの活動は益々広がっていますので、次のホームページでぜひご覧下さい。)

URL: <http://www.mikihouse.co.jp/tatsu>



ありがとう! SIGA JAPAN

SSEAYP インターナショナル第15回総会実行委員長 田中南欧子

(「東南アジア青年の船」第8回参加青年・第22回ナショナルリーダー)

FIFA ワールドカップ・サッカーに賑わった2002年も間もなく終わろうとしています。私たち IYEO の会員にとっても8年ぶりの大行事である SIGA (「東南アジア青年の船」同窓会年次総会) も無事に終えることができました。

思えば、実行委員会を立ち上げたのは、昨年12月のこと、「えー！私が実行委員長？大変だー！」あれからいつの間にか1年近くになります。

暗い冬の夜に実行委員会をぼちぼち始め、新緑

の美しい5月を目ざして、委員のメンバーは何度も IYEO の事務局に足を運び準備を進めてきました。そして、実際にふたをあけてみると、なんと300人を超える参加者にびっくりです。まるで、東南アジア青年の船の国内受け入れプログラムの規模です。そして、なんと言っても家族連れの多いフィリピンやタイ、シンガポールの3か国はビッグなグループでした。初日の夜、深夜を回ってオリンピック・センターの門でフィリピン団のバス

を出迎えたときは、内心少々不安でもありました。しかし、どんな会議でも始まってしまえばスケジュールどおりに流れていくしかありません。

SIGA は、自分の参加した年度のみならず、家族や友人、他の事業の既参加者、これから参加してみたい人など、誰でも参加でき、どんどん輪が広がっていくところが魅力でもあります。

短い期間にもかかわらず、総会、歓迎レセプション、東京近郊ツアーなど盛りだくさんで、特にバスで鎌倉や富士山の近くまで行くことができ好評でした。

テーマ別のディスカッションでは、国や年度を越えての話し合いができ、それぞれの国の同窓会の活動状況や、今後の展望などについて活発な意見交換ができたようです。また、昨年9月にブルネイで起きたバス事故で亡くなった方々の御遺族もマレーシア、インドネシア、ブルネイから来日され、メモリアル・セレモニーにも参列していただくことができました。一言ずつメッセージをいただきましたが、今回初めて、“家族が熱心に活動していた船の事業がどんなものであるか良く理解できました”とおっしゃっていただきました。

さて、今回のテーマである、“Hand in Hand, Face to Face, From my heart to Your heart” や富士山をあしらったロゴマーク、そしてテーマソングも実行委員の中から生まれたものですが、こうして何か形になり、SSEAYPの歴史に残ること



は素晴らしいことだと思います。

ところで、SIGA そのものは、3泊4日と短いのですが、なかなか来日することが難しいこともあり、延泊を希望する参加者も多くその宿舎のアレンジなどでスタッフはとても大変でした。せっかく来てくれたのだから、できるだけそれぞれの希望に沿いたいという気持ちとはうらはらに不可能に近いこともあり、その調整にあたった担当者には心から敬意を表したいと思います。3回目の日本開催は、10年近く先のこととなりますが、今回の良かった点、また反省点を忘れることなく、ホスト・カントリーとしてのホスピタリティーを発揮できますように願っています。

さて、余談ですがSIGAの3か月後、久しぶりにマニラを訪ねる機会がありました。私がNLとして再乗船した1995年のフィリピンのPYから結婚式に招待されたのです。その時にもSIGAの話題が出て「ぜひ行きたかったけど行参加できなくて残念だった。」という声を多く聞きました。

では、SIGA の魅力とは一体何でしょう？いくつかあるのですが、おそらく、そこに行けば、誰かにまた会えるかもしれないとの期待もその一つではないでしょうか。22年ぶりに再会を果たしたかつてのバッチ・メイトとの会話に、いつのまにかPYに戻っている自分に気づきました。そし



て、来年は、マレーシアで会いましょう…と。

最後になりましたが、SIGA JAPAN を開催するにあたりまして、内閣府を始め関係者の皆様、そして御寄付をいただきました多くの方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

どうもありがとうございました。

ホストファミリーと再会！

My Host Parents came – Nice to see You again!

天久 亜紀

(第24回「東南アジア青年の船」参加青年)

今回のSIGA JAPANで一番ビックリしたのは、ブルネイの私のホストファミリーのお父さんとお母さんが来ていて、5年ぶりに“感動の再会”ができたことです。ずっと連絡を取っていなかったにも関わらず私のことをおぼえてくれていて、“アキも来ているかもしれない”と、SIGA参加直後からずっと探していたそうです。5年前とほとんど変わらず若々しく元気そうで、思いがけない再会に感動しました。海外にもお父さん、お母さんのいる私達 ex-PY って、ほんとに幸せですよ。

私はSSEAYPの後、県の留学制度でこの2月までインドネシアに留学していたので、帰国後間もないSIGA参加となりました。分科会やレセプション等でも、皆SSEAYPを愛していて、この事業をいい形で続けていきたいと切に願っていることが分かりました。レセプションに駆けつけた同期のJPYや当時の管理部の方にも逢えて、嬉しいかぎりでした。

最初は、NYCから都内のホテルへは移らないで、SIGA開催中は同じ宿泊施設を利用した方が良いと思っていましたが、案外、移動の時間がちょっとした市内観光のようだったのでそれも良かったのではと思いました。

私は沖縄から参加したので、5月の半ばとあり関東ももうむし暑いだらうと思って半袖だけで上京したら、その日は夜にNYCに着いて、寒くて大変でした。開催中も天候が優れず、寒い思いをしました。アセアンの参加者達も寒さにビックリしたのではないのでしょうか…事前に、予想気温等もお知らせの補足等で書き添えたりするといいと思います。二日間の参加で、土曜の朝にはホテルを発ちましたが、いい思い出をつくることができ、感謝です。すばらしい働きをされたスタッフ、実行委員の皆様にも拍手を贈りたいと思います。参加者、スタッフの皆様、お疲れさまでした。

平成15年度内閣府青年国際交流事業への募集協力について

時の経つのは早いもので、平成14年もジングルベルの歌声が聞かれる季節になってしまいました。

年を越すと、すぐに来年度の事業募集の時期となってしまいます。内閣府青年国際交流事業に参加された皆さんには、ぜひ事業の広報にご協力をいただきたく思い、現在実施されている事業の基本的内容について改めてお示しすることにしました。毎年、3月号に事業募集の広報を掲載していましたが、その時期では遅きに失している感もあり、来年度については1月号から提供可能な情報からお知らせする体制をとる予定ですので、紙面にご注目下さい。また、最新の都道府県 IYEO の会長名簿を掲載しましたのでご参照下さい。(都道府県会長及び役員の皆さんも全員ボランティアです。掲載の住所等は、事務所などではなく自宅ですので、連絡を取られる際はご注意ください。)

今年度(平成14年度)実施の内閣府青年国際交流事業一覧

事業名	事業の内容
国際青年育成交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 皇太子殿下の御成婚を記念して、平成6年度に開始。 ● 日本青年の海外派遣及び外国青年の日本招へいの2つの事業から構成。 ● 当時皇太子殿下下であられた現天皇陛下の御成婚記念事業として昭和34年度から開始された「青年海外派遣」事業及び昭和37年度に開始された「外国青年招へい」事業を継承発展。 ● ボランティア活動、福祉活動、伝統文化等の共同体験交流を中心とした拠点滞在型の国際交流活動を実施。 ● 日本青年約60名を世界6か国に23日間派遣、世界11か国から外国青年約100名を24日間招へい。
日本・中国 青年親善交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 日中平和友好条約の締結を記念し、日本を中国両国政府の共同事業として昭和54年度に開始。 ● 日本青年約30名を19日間派遣、中国青年約30名を20日間招へい。
日本・韓国 青年親善交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 昭和59年の日本・韓国共同声明及び昭和60年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、日本と韓国両国政府の共同事業として昭和62年度に開始。 ● 日本青年約30名を15日間派遣、韓国青年約40名を16日間招へい。
世界青年の船	<ul style="list-style-type: none"> ● 明治百年事業の一つとして昭和42年度から実施してきた「青年の船」事業を改組し、昭和63年度に開始。 ● 日本青年約120名と訪問国を含む世界各国12か国の青年約150名が45日間船内で共同生活をしながら、世界的視点に立って共通の課題の研究・討論、各種の講義、スポーツなどの交流活動を行うとともに、訪問国では現地青年との交流活動を実施。 ● 北・中・南米、オセアニア方面と南西アジア、アフリカ、中近東等方面を隔年で訪問。
東南アジア青年の船	<ul style="list-style-type: none"> ● アセアン各国を日本との間の共同声明に基づいて、昭和49年度に開始。 ● アセアン10か国の青年約300名を日本青年約40名が50日間船内で共同生活をしながら、アセアン各国及び日本を訪問。

21世紀ルネッサンス 青年リーダー招へい	<ul style="list-style-type: none"> ●21世紀のスタートにふさわしい新たな交流事業として平成13年度に開始。 ●世界各国の青年リーダー約84名を14日間招へいし、日本の青年リーダーとの討議・交流を実施。
青年社会活動 コアリーダー育成 プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ●社会活動の中核を担う青年リーダーの育成を目的に平成14年度に開始。 ●社会活動に携わっている日本青年と外国青年が討議・交流を実施。 ●日本青年約15名を10日間派遣、外国青年約40名を14日間招へい。

日本青年国際交流機構都道府県会長一覧

(2002年11月1日)

都道府県名	団体名称	会長氏名	〒	住 所
北海道	北海道青年国際交流機構	板倉美穂子	063-0826	札幌市西区発寒6-14-499-50
青 森	青森県青年国際交流機構	奥谷 史人	039-0612	三戸郡名川町大字剣吉字伊勢沢52-1
岩 手	岩手県青年国際交流機構	伊藤 純	020-0114	岩手県盛岡市高松1-17-11
宮 城	宮城青年国際交流機構	及川留太郎	987-1304	志田郡松山町千石字松山482
秋 田	秋 田 県 青 友 会	酒井 慶一	010-1212	河辺郡雄和町平尾鳥字中村83-1
山 形	山形県青年国際交流機構	富樫 透	999-7725	東田川郡余目町大字沢新田字鏑151
福 島	船と翼の会ふくしま	岩橋香代子	969-6186	北会津郡北会津村大字古館乙204
茨 城	茨城県青年国際交流機構	渡辺 英明	308-0806	下館市小林124
栃 木	栃木県青年国際交流機構	手塚美保子	329-1300	塩谷郡氏家町大字氏家2444
群 馬	群 馬 青 友 会	小川 弘和	370-0862	高崎市片岡町3-8-15
埼 玉	埼玉県青年国際交流機構	関根 廣次	356-0045	入間郡大井町鶴ヶ岡2-1-23-105
千 葉	千葉県青年国際交流機構	飯島 照明	286-0841	成田市大竹1656
東 京	東京都青年国際交流機構	秋葉 直弘	194-0044	東京都町田市成瀬1-3-13
神奈川	神奈川県青年国際交流機構	篠崎 浩子	221-0802	横浜市神奈川区六角橋6-25-4
山 梨	山梨県青年国際交流機構	中澤 綾	409-3866	東巨摩郡昭和町西条28-1
新 潟	新潟県青年国際交流機構	長谷川吉仁	940-2157	長岡市大積三島谷町581
富 山	富山県青年国際交流機構	杉木 芳文	939-0561	富山市水橋石割54
石 川	石川県青年国際交流機構	宮本 剛	921-8806	石川郡野々市町稲荷2-26
福 井	福 井 県 青 友 会	斎藤清一郎	911-0832	勝山市遅羽町逢生16-5
長 野	長野県青年国際交流機構	樋口 敦子	381-2224	長野市川中島町原101

都道府県名	団体名称	会長氏名	〒	住 所
岐 阜	岐阜県青年国際交流機構	小川 弘孝	501-6063	羽島郡笠松町長池 315
静 岡	静岡県青年国際交流機構	太田 清香	427-0033	島田市相賀 1447
愛 知	愛知県青年国際交流機構	毛受 芳高	455-0801	名古屋市港区子碓 2-140-103
三 重	三重県青年国際交流機構	池田 憲二	514-0101	津市白塚町 4358-1-107
滋 賀	滋賀県青年国際交流機構	久田亜友美	520-0805	大津市石場 8-3
京 都	京都府青年国際交流機構	清水 隆司	612-0883	伏見区深草石峰寺山町 42-10
大 阪	大阪府青年国際交流機構	木戸 稔子	599-0203	阪南市黒田 540-1
兵 庫	兵庫県青年国際交流機構	上脇 義生	655-0004	神戸市垂水区学が丘 3-4-1-807
奈 良	奈良県青年国際交流機構	喜多 聡	639-2101	北葛城郡新庄町疋田 83-4
和歌山	海 友 会	岡本 和哉	642-0002	海南市日方 1026-13
鳥 取	と っ と り 青 友 会	河崎 忠義	689-0217	気高郡気高町酒津 650 番地
島 根	島根県国際交流青友会	山本 正敏	693-0063	出雲市大塚町 718-1
岡 山	岡山青年国際交流会	坂手 祥邦	708-0322	苫田郡鏡野町沖 254
広 島	広島県青年国際交流機構	林 亜有子	730-0049	広島市中区南竹屋町 1-17-301
山 口	山口県青年国際交流機構	鈴木 義久	758-0061	萩市椿 3633-1 エネルギア椿 303
徳 島	徳島県青年国際交流機構	藪田ひとみ	770-0905	徳島市東大工町 3-10-2
香 川	香川県青年国際交流機構	田代 雅一	760-0080	高松市木太町 2140-1-304
愛 媛	愛媛県青年国際交流機構	泉 政典	799-2430	北条市辻 1368
高 知	高知県青年国際交流機構	浜川真千子	784-0004	安芸市本町 3-4-31
福 岡	福岡県青年国際交流機構	中村 隆子	813-0013	福岡市東区香椎駅前 1-19-28-301
佐 賀	佐賀県青年国際交流機構	下村 敏明	845-0022	小城郡三日町久米 1816-3
長 崎	長崎県青年国際交流機構	末永 透	859-2304	南高来郡北有馬町丁 397
熊 本	熊本県青年国際交流機構	武元 典雅	861-3906	阿蘇郡蘇陽町神ノ前 242-15
大 分	大分県青年国際交流機構	安東 敏真	870-1152	大分市大字上宗方 1052-8
宮 崎	宮崎県青年国際交流機構	上杉 聖次	889-0505	延岡市北一ヶ岡 2-6-6
鹿 児 島	鹿児島県青年国際交流機構	吉村 正人	899-6201	始良郡栗野町木場 89-1-301
沖 縄	沖縄県青年国際交流機構	棚原 弘一	901-0156	那覇市田原 4-5-16-205

(財)青少年国際交流推進センター事務局日誌より(9月～11月)

9/3-4	第16回日本・韓国青年親善交流事業(派遣)直前研修	
9/5-19	第16回日本・韓国青年親善交流事業(派遣)	
9/5	第29回「東南アジア青年の船」ナショナルリーダー来日	
9/8-17	第29回「東南アジア青年の船」国内受入プログラム	
	9/9 オリエンテーション、参集式、歓迎会	
	9/10-11 「アジア青年のつどい」	9/12 課題別視察
	9/13-15 地方旅行	
9/8-12	「東南アジア青年の船」ホストファミリー代表者招へい	
9/8-9	第9回国際青年育成交流事業(派遣)直前研修(メキシコ除く)	
9/10-10/2	第9回国際青年育成交流事業(派遣)(メキシコ除く)	
9/12-13	第24回日本・中国青年親善交流事業(派遣)直前研修	
9/14-10/2	第24回日本・中国青年親善交流事業(派遣)	
9/14-15	東海ブロック青少年国際交流を考える集い(岐阜県)	
9/17-10/29	第29回「東南アジア青年の船」運航	
9/20-21	第16回日本・韓国青年親善交流事業(派遣)事後研修	
9/21-22	北信越ブロック青少年国際交流を考える集い(新潟県)	
9/26-10/9	第2回21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい事業	
	9/27 表敬訪問、歓迎会	9/27-29 「ヤング・リーダーズ・フォーラム」
	9/30-10/1 課題別視察	10/2-6 地方旅行
10/8	「青年賢人会議」、評価会、歓送会	
10/2-3	第9回国際青年育成交流事業(派遣)直前研修(メキシコ)	
10/3-4	第9回国際青年育成交流事業(派遣)事後研修(メキシコ除く)	
10/3-4	第24回日本・中国青年親善交流事業(派遣)事後研修	
10/4-26	第9回国際青年育成交流事業(派遣)(メキシコ)	
10/11-29	「東南アジア青年の船」既参加青年連携強化会議(OBSC)	
10/22-30	第15回「世界青年の船」参加外国青年受入れプログラム	
	10/23 オリエンテーション・都内視察・歓迎会	
	10/24 課題別視察	10/25-27 地方旅行
10/26-27	北海道・東北ブロック青少年国際交流を考える集い(秋田県)	
10/27-28	第9回国際青年育成交流事業(派遣)事後研修(メキシコ)	
10/27-29	第15回「世界青年の船」直前研修	
10/30-31	第29回「東南アジア青年の船」参加青年事後研修	
10/31-12/13	第15回「世界青年の船」運航	
11/6-21	第16回日本・韓国青年親善交流事業(招へい)	
	11/7 オリエンテーション、都内視察、歓迎会	
	11/8 課題別視察	11/9-18 地方旅行
	11/18-19 日中韓セミナー	11/20 歓送会
11/12-12/1	第24回日本・中国青年親善交流事業(招へい)	
	11/13 オリエンテーション、歓迎会	11/14 課題別視察
	11/15-29 地方旅行	11/18-19 日中韓交流セミナー
	11/30 都内視察	
11/22-23	青少年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議	
11/23-24	青少年国際交流事業事後活動推進大会	



平成 14 年度 内閣府国際青年交流事業 事業報告会

今年度も下記 3 事業が終了し、参加青年たちは報告会に向けて実行委員を募り、準備をすすめています。既参加青年の皆さまだけでなく、これから事業に参加しようと考えている方、国際交流事業に興味がある方、友人や知り合いなどを誘って、是非ご参加ください。3 事業それぞれに工夫が凝らされており、見ごたえ充分です。

事業名	開催日	開催場所/時間	参加費
国際青年育成交流 日中・日韓青年親善交流	2003 年 2 月 2 日(日)	(独) 国立オリンピック記念青少年総合センター 13:00～16:30 (予定)	無料
第 29 回「東南アジア青年の船」事業	2003 年 2 月 9 日(日)		
第 15 回「世界青年の船」事業	2003 年 3 月 2 日(日)		

【申込み方法】

参加をご希望される方は、お名前、参加希望事業名、参加事業／紹介者、連絡先をご記入の上下記の問い合わせ先まで郵送、電話、FAX、E-mail にてお申込みください。

<お問い合わせ先>

〒130-0013

東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6 階
(財)青少年国際交流推進センター 「〇月〇日事業報告会係」



TEL:03-3249-0767

FAX:03-3639-2436

E-mail:hq@iyeo.or.jp

平成14年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）開催日程

平成14年度ブロック大会の開催日程は以下の通りです。14年中の大会は無事終了し、残す開催は3大会となりました。東海と近畿、九州ブロックの皆さん、多くの方の参加をお待ちしています。

ブロック	開催府県	開催日	ブロック構成都道府県
北海道・東北	秋田県	10月26日～27日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関東	神奈川県	11月23日～24日 (全国大会と同時開催)	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北信越	新潟県	9月21日～22日	新潟・長野・富山・石川・福井
東海	岐阜県	平成15年 1月18日～19日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	滋賀県	平成15年 1月25日～26日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	島根県	6月22日～23日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	香川県	8月24日～25日	徳島・香川・愛媛・高知
九州	長崎県	平成15年 2月1日～2日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

編集後記

まず始めに、今号の発行が大変遅れたことをお詫びします。第29回「東南アジア青年の船」は無事帰国し、現在は第15回「世界青年の船」が航行

中で、12月13日に東京港晴海埠頭に帰航します。航空機派遣事業も終了し、韓国・中国の受入れが行われているところです。

*本誌の年間講読をご希望の方は、財団法人青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM(マクロコズム) 11月号 Vol.49 2002年11月20日発行(隔月発行)

編集:マクロコズム編集委員会

発行:財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL <http://www.centerye.org>

<http://www.iyeo.or.jp> (IYEO)

編集協力:内閣府政策統括官

(総合企画調整担当)

日本青年国際交流機構

定価:198円(本体189円)

印刷所:株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

課題別視察（9月12日）

330名余の全参加者に希望を取り10分野13コースに分かれて行われた課題別視察は、日本独特なプログラムで、毎年参加青年から好評を得ています。（教育：国立東京学芸大学／文化：歌舞伎座、裏千家、東京国立博物館／政治：国会議員との懇談・国会見学／司法：弁護士との懇談・最高裁判所／福祉：大田区立くすのき園／経済：全日空メンテナンスセンター・(株)東京ガス根岸工場／環境：(株)リコー／防災：本所防災館／ボランティア：上野動物園（東京都シルバーボランティア）／マスメディア：毎日新聞）



▲ 国立東京学芸大学
学生との意見交換は、有意義な一時となったようです



▲ (株)リコー
環境問題に真剣に取り組みバランスの取れた企業活動を目指す姿勢は、素晴らしいものでした



▲ 東京国立博物館
基信国際交流室長を始め皆さんの丁寧な対応に感謝



▲ 大田区立くすのき園



▲ 上野動物園（東京都シルバーボランティア）
いつもお世話になります

第29回「東南アジア青年の船」日本国内受入れプログラム

地方旅行(9月13日~15日)

全ての寄港地活動でホームステイが実施されるのが、「東南アジア青年の船」事業の特色の一つです。異なる国のメンバーの組み合わせで2人1組になってホストファミリーにお世話になります。

今年は、9県2市に分かれて行われました。(群馬、富山、山梨、和歌山、島根、広島、香川、愛媛、沖縄の各県と函館市、長野市)



◀ 沖縄県
稲嶺知事への
表敬訪問



▲ 愛媛県 そろって浴衣の初体験



広島県
平和を願って ▼

函館市 昨年に引き続いての受入れ
函館の皆さん、ありがとうございました ▶



◀ 長野市(前列左:鷺沢市長)
鷺沢市長の大歓迎を受けて



1973年2月14日。一隻の大型客船が横浜を出航しました。歴史的な日本初の世界一周クルーズへの出発です。それが、初代「にっぽん丸」。現在の「にっぽん丸」はそれから数えて3代目です。この間、私たちは、日本のクルーズの先駆者として、新しいクルーズや様々なサービスを開発してきました。例えば、日本船初めての展望浴場などは、ほんの一例。また、私たちの長い経験の集大成である独自の船内プログラムが、他の日本客船全てのお手本になっていたりもします。ところで豪華客船でのクルーズと言うと、リタイア後の老夫婦がのんびりと旅をされているイメージをお持ちではないでしょうか。でも、「にっぽん丸」に乗船してこられるお客様は、驚く程アクティブな方が多いのです。いや、アクティブになられると言った方が正しいのかもしれませんが。これまでの人生になかった新しい体験を、船の上で得た新しい仲間達と一緒に貪欲に吸収されるのです。自ら進んで何か新しいものを得ようとする気持ちを冒険と言うとすれば、冒険には年齢や性別なんて関係ない、私たちは、そんな皆さんの想いを満足させることを一番大切に考えています。そして私たち自身も、お客様に負けなくらいに、いつも新しい事に挑戦して行こうと思っています。これまでも、ずっとそうして来たように。

冒険する生活を選びました。

冒険する生活
にっぽん丸



にっぽん丸は、米国公衆衛生局 (USPH) による船舶衛生検査において、3年連続で日本船最高得点を獲得しました。

クルーズデスク フリーダイヤル
0120-791-211



商船三井客船

<http://www.mopas.co.jp>

美しい時代へ——東急グループ

行ってらっしゃい、
いい旅へ。



豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をお作りします。
大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

—— 旅のすべてを知っている東急観光です。 ——

YOKU TOURS 豊かな感動のステージへ——
東急観光

運輸大臣登録旅行業第38号 日本旅行業協会正会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://tour.tokyu.com>

マクロコスム 2002年11月号 通巻四十九号隔月発行

定価一九八円(本体一八九円)

編集協力..

内閣府政策総指官
(総合企画調整担当)
日本青年国際交流機構